

大和市大腸がん検診を受ける方へ

- ☐ 大腸がんは、日本では罹患する人が増加しており、がんによる死亡原因の上位に位置するがんです。
- ☐ 検診を受けることで、がんによる死亡リスクが減少します。
市が実施している大腸がん検診は、死亡率を減少させることが科学的に証明された有効な検診です。
- ☐ がんは、発生してから一定の大きさになるまで時間がかかる場合もあれば、急速に進行する場合があります。大切な命を守るために、40歳以上の方は、大腸がん検診を年に1度、定期的に受けましょう。
- ☐ 血便、腹痛、便の性状や回数が変化した、などの症状がある場合は、がん検診を待たずに医療機関を受診し 医師に相談してください。
- ☐ 検診で「便潜血陽性」あるいは「要精密検査」となった場合は、必ず精密検査を受けてください。
がんは、症状が出るまでに時間がかかる場合がほとんどです。自覚症状がなくても精密検査を受けることが大切です。
また、便潜血陽性の判定後、もう一度便潜血検査をすることは精密検査の代わりになりません。一度陽性の反応が出たら、必ず精密検査を受けてください。
- ☐ がんでなくても「要精密検査」と判定される場合があります。しかし、大腸がんで亡くなることを防ぐメリットの方が大きいことが証明されています。そのため、検診を定期的に受診すること、精密検査を受診することが大切です。
- ☐ 大腸がん検診後の精密検査の第一選択は、全大腸内視鏡検査です。
全大腸内視鏡検査：
下剤で大腸を空にした後に、肛門から内視鏡を挿入して大腸を撮影し、がんやポリープなどがないか調べます。必要に応じて組織を採取し、詳しく調べます。
内視鏡検査と大腸のX線検査の併用法：
大腸全体を内視鏡で観察することが困難な場合には、内視鏡が届かない奥の大腸をX線検査で調べます。大腸のX線検査は、下剤で大腸を空にした後に、肛門からバリウムを注入し、空気で大腸をふくらませて大腸全体のX線写真を色々な方面から撮影する検査です。
- ☐ すべてのがんが、がん検診で見つかるわけではありません。検査では見つけにくいがんもあります。
- ☐ 検診は自治体と、各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は市役所へ報告されます。また、最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合、精密検査結果は、最初に受診した医療機関にも共有されます。

この用紙はお持ち帰りになり、検診結果が出るまで保管してください。